

2014年5月13日
コベルコクレーン株式会社

コベルコクレーン 2014年3月期 決算概要

【2014年3月期の概況】

当事業年度のクローラクレーンの国内市場は、震災復興関連に加えて2012年度大型補正予算繰延分等の公共工事の大幅増加を背景に、総需要が前年比47%増と大幅に伸びました。

海外市場は、シェールガス関連投資を中心に依然活況を呈する北米、シンガポール、マレーシアを中心にインフラ投資が好調な東南アジア、大型プロジェクトに沸く香港にて需要が増加しましたが、欧州、中東、中国、インドでは需要が伸び悩みました。その結果、海外総需要は前年同期比6%減(当社推定)となりました。また、為替については平均1ドル101.9円にて推移し、他通貨含めて全般的に円安傾向であったことから、海外売上比率の高い当社にとっては追い風の状況が続きました。

このような状況の中、国内販売においては需要動向の変化を確実に捉え、販売台数を伸ばしました。海外販売においては為替の好転を受けて新車販売が好調となり、特に東南アジア、香港において大幅に販売台数を伸ばしました。

国内生産においては好調な引合・受注に対応した増産対応を実行し、収益拡大に結び付けることができました。また、海外の新規サプライヤー開拓、新規部品の評価フローの整備などがすすみ、為替変動リスクに対応したグローバル調達体制の基礎固めができました。

インド・中国の両工場においては、引き続き国内需要が低迷しており、生産・販売ともに伸び悩む結果となりました。インドにおいては需要低迷に苦しみましたが、年末に大口受注を獲得し、14年度に弾みをつけることができました。中国においては現地販売代理店の活性化を図るとともに、商品ラインナップの拡充に向けた準備を進めました。

結果として当期の連結売上高は前事業年度比24.5%増収の56,639百万円、連結経常利益は5,450百万円増益の3,200百万円、連結当期純利益は6,376百万円増益の3,531百万円となりました。

【2014年3月期の実績】

(単位：百万円)

		売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
連結	2014年3月期	56,639	3,362	3,200	3,531
	(前年同期比)	+24.5%			
	2013年3月期	45,501	△ 2,108	△ 2,250	△ 2,845

* 本数値は監査法人による監査前の数値となります。

【中期計画の見直し】

当社はこのたび、昨年3月に策定した中期経営計画（2013～2015年）の残り2か年（2014～2015年）を見直し、「KCL ジャンプアッププラン 2.0」として策定いたしました。基本的な方向性は当初から大きく変わらないものの、下記2つの基本方針の下に、行動計画をより具体的なものとしております。当中期計画の2年間は当社にとって比較的良好な経営環境が続くことが見込まれる為、その間に10年後を見据えた企業基盤の基礎固めをすべく下記課題に取り組んでまいります。

「KCL ジャンプアッププラン 2.0」

《基本方針》

- 経営環境の変化に耐え、安定収益を確保する為の事業基盤を確立すると共に、事業の拡大と発展に向けた基礎固めを行う。
- 10年後、売上高 1,000 億円、経常利益率 10%を獲得する事業体を目指す。

《重点取組課題》

- 東南アジアと日本を重点攻略市場と位置付け経営資源を傾斜投入
- 受注組立型生産による在庫削減と徹底した生産変革によるリードタイム短縮
「クロスマグマプロジェクト」推進
- 工程保証能力強化による完成度の高いものづくり
- 将来に向けた商品ラインナップの拡充
- キャッシュフロー改善
- 組織の活性化

【2014 年度の見通し】

国内市場は、引き続き活発な公共投資から建設機械の高稼働状態が持続し、東京五輪開催決定といった明るい材料もあることから、クローラクレーンの需要は昨年よりさらに増加し、当面好調を維持する見込みです。

海外市場においては、北米や東南アジアは引き続き堅調に推移すると見込まれ、伸び悩んでいたインド、中国、欧州などの地域においても需要は徐々に回復の傾向にあります。

このような良好な市場環境から最大限の販売量を確保すべく、当社は更なる営業力強化と、生産変革「クロスマグマ・プロジェクト」に取り組めます。

営業面では、国内・東南アジアに重点的に戦力投入し、販売量の最大化を図ります。

生産においては、「クロスマグマ・プロジェクト」を推進、従来の見込生産から受注生産方式に移行することによって、無駄のない効率の良い生産体制を構築し、需要の増加に最大限対応してまいります。

中国・インドの両現地法人は依然厳しい状況が続くものの、引き続き現地調達推進によるコストダウンを継続するとともに、販売サービス体制の強化、商品ラインナップの拡充を行い、需要回復を確実に取り込める体制構築を目指します。

2014 年度通期の売上高は、73,000 百万円程度、経常損益は 3,500 百万円程度となる見通しです。

【2014 年度通期の見通し】

(単位：百万円)

		売上高	経常利益
連結	2014 年 3 月期	56,639	3,200
	2015 年 3 月期	73,000	3,500

*2014 年度における為替レート前提： 1 米ドル＝ 103 円、1 ユーロ＝140 円

*上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。
実際の業績は、今後の様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

平成26年3月期 決算業績概要

会 社 名 コベルコクレーン株式会社
 代 表 者 代表取締役社長 塚本 晃彦
 問合せ先責任者 経営企画部長 平川 武通
 株 主 株式会社 神戸製鋼所 (当社株式の保有比率：100%)

1. 平成26年3月期の連結業績 (平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(1) 連結経営成績

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
	百万円	百万円	百万円	百万円
26年3月期	56,639	3,362	3,200	3,531
25年3月期	45,501	△ 2,108	△ 2,250	△ 2,845

	一 株 あ た り 当 期 純 利 益	自 己 資 本 当 期 純 利 益 率	総 資 産 経 常 利 益 率	売 上 高 営 業 利 益 率
	円 銭	%	%	%
26年3月期	34,017.79	12.2	5.5	5.9
25年3月期	△ 27,411.19	△ 11.5	△ 4.7	△ 4.6

(2) 連結財務状態

	総 資 産	純 資 産	自 己 資 本 比 率	一 株 あ た り 純 資 産
	百万円	百万円	%	円 銭
26年3月期	58,680	28,733	47.7	271,777.10
25年3月期	48,311	24,824	50.7	232,468.68